

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 0991500067 | | |
| 法人名 | 特定非営利活動法人いかんべ | | |
| 事業所名 | グループホーム富士見屋 | | |
| 所在地 | 栃木県 那須烏山市 下川井1439番地 | | |
| 自己評価作成日 | 平成30年 10月 5日 | 評価結果市町村受理日 | 平成31年1月28日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokanri.nsf/aHyokaTop?0 |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--|--|--|
| 評価機関名 | 一般社団法人 栃木県社会福祉士会 | | |
| 所在地 | 宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3階 (とちぎソーシャルケアサービス共同事務所内) | | |
| 訪問調査日 | 平成30年 10月 21日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念の一つである、ひとつの命の重要性、人の命の尊さを感じていけるよう、関わった方の最後はご本人・ご家族様と十分に話し合い、想いに沿った形を提供できるように努めます。という考えを実行している。終末期についてご本人・ご家族様との話し合いを時間をかけてさせていただいている。設立5年目になり、看取りの実績を積んできており、本人・ご家族が最期の過ごし方を悩まれる時には、今まで富士見屋で行ってきた看取りについてお話をさせていただいている。ご本人・ご家族共に富士見屋での看取りを希望される方が多く、希望されたご家族からは感謝の言葉をいただいたり、感動され涙を流して下さるご家族も多い。職員の自信にもつながっており理想的な最期だと看取りを通して、介護の仕事が喜びや感動をもらえるものだと感じている職員も多い。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・古民家風の建物で共用空間では、眩しくない照明で落ち着いた雰囲気作りを心掛けている。
- ・地域の夏祭りには神輿が事業所に立ち寄り、夏祭りの雰囲気を運んでくれている。地域の方が野菜の寄付や事業所の周りの草むしりを自主的に行うなど協力関係がある。
- ・利用者の思いや意向を把握するために、多くの会話や関わり合いを全職員で行っている。利用者との関りの中で気づいたことや支援での成功例などを「何でもノート」に記入し、職員間で共有し支援に活かしている。
- ・往診の医師と訪問看護師の連携で、職員は多くの看取りを支援している。可能な限り本人・家族が望む看取りに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|--|---|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|---|--------------------------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 法人設立時の職員全員で考えた理念であり、とても大切にしている。職員と話し合いを持つ際は必ず理念をもとに考えている。 | 理念には利用者の個性を大切にして、支援することが掲げられている。管理者は職員が支援で悩んだとき、理念に立ち戻って考えるよう職員に教育、実践している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域行事には毎回参加している。日頃から近所を散歩しており、近所の方達とは顔見知りで仲良くさせていただいている。日頃からイベントや散歩を通して交流を多く持っている。 | 地域の夏祭りには、神輿が事業所に立ち寄り、夏祭りの雰囲気運んでくれている。地域の方が野菜の寄付や事業所の周りの草むしりを自主的に行うなど協力関係がある。 | 今後は地域の協力者が、登録制などの支援体制が整備できることを期待します。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 日頃の交流を通じて、利用者様の認知症状の説明や支援方法の理解を深めている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議では、利用者様の状態の変化や取り組みの内容等を詳しく説明している。出た意見は取り入れられている。 | 会議では事業所の現状や変化について連絡、報告を行っている。地域住民からは看取りや医療体制についての質問などがあり、事業所の現状を説明している。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 困難事例やトラブル時には市の担当者と相談しあっている。市の方からも、困難利用者様の入所を検討してほしいと相談を受けている。 | 事業所で抱える問題は、積極的に市へ相談し、速やかに解決できるよう取り組んでいる。また市から独居高齢者の相談を受けるなどの関係性がある。市が主催する福祉の地域イベントなどにも協力している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束については、定期的に話し合いを持っている。玄関の施錠はしておらず、一般家庭と同じようにしている。利用者様は自由に外に出ることが出来る体制をつくっている。 | 新人職員が入職した際には、身体拘束についての説明をしている。定期的に会議で身体拘束をしないケアについて話し合いをして、全職員は共通したケアに取り組んでいる。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 高齢者虐待について定期的に話し合いを持っている。自宅に利用者様が帰った際は、変わった様子はないか確認している。職員とは話し合いを多く持ち、ストレスを軽減できるようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|---|-------------------------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見制度を利用されている方がおり、必要性がある場合は関係者と相談している。管理者が中心に関わっており、職員全員は理解していない。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 利用者様やご家族様とは、時間をかけて話し合いをしている。不安や疑問について理解や納得をしていただけるまで、話し合うようにしている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者様やご家族様とは話し合いを多くっており、意見や要望を言いやすい環境にしている。出た意見は運営推進会議の場で外部の方にも伝え、運営に反映している。 | 利用者数名が集まり、事業所にお願したいこと、改善してもらいたいことなどの会議が行われている。家族からは、面会や行事の参加の時に事業所への要望や意見を聞いている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 管理者は、職員ひとり一人と個別の面談を行っており、職員の意見や提案を運営に反映させている。 | 管理者は全職員と日常的にコミュニケーションを多くとり、職場や家庭での不安を解消できるように取り組んでいる。職員との対話により、勤務シフトの調整や支援の見直しなどの改善が行われている。 | 今後は各職員の専門性を高めていくためのレベルアップの支援を期待します。 |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 代表者も勤務に入り、職員個々の努力や勤務状況の把握に努めている。やりがいや向上心を持てるように、職員が職場にどんな事を望んでいるかも話し合っている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修や資格がとれるような勤務にしている。代表者も勤務に入ることで、働きながら指導出来るようにしている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている | 他事業所との合同勉強会を月に一度行っており、参加希望の職員はいつでも参加出来るようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ご本人の不安や要望を一番に考えサービス利用の開始にむけて準備するようになっている。利用者様の要望を取り入れる施設だと御家族にも理解していただけるよう話をしている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | サービスを利用する前よりご家族の不安や要望を時間をかけて話しあえるようになっている。ご家族と協力しあえる関係づくりに努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入所申し込みをされる時に、利用者様の状態やご家族が望まれている支援内容等、時間をかけて聞いている。必要な支援がある場合は担当ケアマネにも連絡し情報を共有している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者様が職員の心配や相談相手にもなっている。家族のような関わりを利用者様とはしている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 利用者様がご家族に対して、どういう思いを持っているか、職員は日頃から利用者様と話す機会を多くもっており、利用者様がご家族には伝えられない思いは職員より伝えていく。家族との繋がりを入所後も継続出来るようになっている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 入所前に大切にしていた人や場所の把握に努めており、入所後も継続出来るように支援している。ご家族にも相談し、入所後も友人との関係を継続出来るよう協力していただいている。 | 家族の協力で外出や友人との関わりが継続できている。利用者が昔から利用している美容室が事業所に来て、サービスを提供している。民生委員による情報提供により、友人関係の継続も行われている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士の関係を常に把握出来るように職員は細かな出来事も引継ぎをするようになっている。孤立する利用者様がいないように職員が間に入るようになっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約が終了した後も、相談事があるときは気軽に連絡してもらえるように、お声掛けをさせていただいている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 利用者様と職員は日頃から話を多く持てるようにしており、利用者様が職員に相談しやすい関係を築いている。困難な利用者様に対しては職員同士で十分に検討するようにしている。 | 思いや意向を把握するために、多くの会話や関わり合いを全職員で行っている。利用者との関わりの中で気づいたことや支援での成功例などを「何でもノート」に記入し、職員間で共有し支援に活かしている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 利用者様の今まで大切にしてきた事やサービス利用に至った経過の把握に努め、入所後も継続出来るようにしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 利用者様の状態の変化には早期対応できるように、細かい事でも職員同士で話し合をするようにしている。現状にあわせた支援を考えている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人の生活を支えて下さっている関係者の方、すべての方の意見を聞いた上で介護計画を作成している。 | 介護計画の作成は、本人の自立支援を重視している。また、本人や家族が望むことや困っていることを聞いて、医療関係者や職員のアイデアなども含めて介護計画が作成されている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 職員間で情報を共有できる記録用紙の見直しをしている。見直しをしている途中のため、継続していく。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人や家族の要望は常に取り入れられるよう、決まりごととはならず、柔軟な対応が出来るように、職員とはその都度話し合いをして支援方法を決めるようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域との協力体制が出来ている。入所されても、施設内だけの生活にならないように、豊かな暮らしを楽しめるように支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 受診に関しては本人やご家族の希望を取り入れている。また、体調にあわせた専門の病院も紹介させていただいており、適切な医療を受け、状態の安定につなげている。 | 今までのかかりつけ医師と往診する医師の選択ができる体制である。訪問看護師との連携で、日頃の健康管理が行われている。 | |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 介護職員と看護職員の勤務内容を同じにしており、連携がとりやすいようにしている。協力病院の看護師とも何でも相談しあえる関係を築いている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 日頃から、病院の関係者とは情報交換や相談をしており、入院についても認知症状の悪化等も考えた上で決めている。病院関係者と連携を図ることで入院しない方法等も相談しあえている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 契約時から看取りまで関わらせていただいている施設だと説明している。本人やご家族の終末期の思いを確認している。体調によって変わる思いも、その都度時間をかけて話し合っている。 | これまで多くの看取りを支援しており、可能な限り本人・家族が望む看取りに努めている。契約時や状態変化が起きた時にはその都度、終末期の説明をし方向性を確認している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | AED講習を職員全員が受けられるようにしている。一度は講習を受けているが、勤務の都合で定期的には出来ていない。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 定期的に避難訓練を行っている。利用者様の重度化に伴い少ない職員での避難に時間がかかるようになってきている。地域の協力を得られるように関係を作っている。 | 消防署立ち合いの避難訓練を定期的に行っている。火災のほか、土砂崩れなど想定される災害に対する避難訓練も行っている。今年度、災害マニュアルを見直し、現状の利用者の状態に合わせた避難方法も検討している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | ひとり一人の人格を考えた関わり方をしており、声掛けや対応を工夫している。 | 排泄や入浴などプライバシーに関わる場面では、周りの方へ声掛けなどが聞こえないように配慮している。食事の席も利用者同士の相性を考えたり、本人の意向に沿いながら配置を考えている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日常生活の中で利用者様の希望を職員は聞くようにしており、利用者様が自己決定できるようにしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 職員の都合で業務は作っておらず、利用者様一人ひとりのペースやその日の体調にあわせた生活が出来るようにしている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 利用者様と職員が洋服等買いにいけるような体制を作っており、その人らしさを大切にしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事のメニューを考える際に、利用者様に食べたいものがあるか、要望を聞いている利用者様の無理のない範囲で食事の準備や片付けをしていただいている。 | 食事のメニューは、利用者から意見を聞いて、1週間ごとに職員が交代で作成している。利用者には、準備や後片付けなどに協力してもらっている。季節に合わせて、土用のウナギや十五夜の団子、クリスマスのチキンなどを提供をしている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事・水分摂取表があり、利用者様の摂取量を確認している。摂取量の少ない方には個別に関わりを持ち、摂取していただくようにしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、口腔ケアをするようにしている。一人ひとりにあわせた支援をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | 排泄チェック表を活用しており、トイレでの排泄を行っている。拒否がある利用者様に対しては無理な誘導ではなく、職員で話し合いを持ち、工夫するようにしている。 | 利用者一人ひとりに合った誘導や声かけで支援している。下剤に頼らず、自然排便につながるように普段の食事から乳製品や果物を取り入れるなどの取り組みをしている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 利用者様の状態にあわせた便秘対策に取り組んでいる。改善が難しい方は、医師に相談をしている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている | 入浴日は決めておらず、利用者様の体調やその日の気分等を確認しながら、入浴していただいている。 | 週2回の入浴ができるよう支援している。希望する方は毎日の入浴も可能である。重度化した利用者入浴は、安全のため職員2人体制で支援をしている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 就寝時間は作っておらず、今までの生活習慣で遅く眠っていた方に対しては、夜間職員が話し相手になったりしている。安心していただけるように、職員は関わるようにしている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | お薬が変わる時には、職員全員が同じ説明が出来るように情報の共有化をしている。本人が安心できるように、何度も説明をするようにしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 利用者様の好きなことや楽しみを職員は把握するようにしている。楽しみを持って、生活出来るように支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 利用者様の重度化に伴い、外に出かける機会が減っている。利用者様より要望があった際は行けるような体制を作っている。 | 日常的に散歩を行い、利用者の身体機能の維持と気分転換を図っている。花見や紅葉など見て楽しむ外出やいちご狩りなどの食べて楽しむ外出を実施している。家族と利用者が一緒に外食することも盛んに行われている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ご本人からの希望があった場合は、ご自分で財布を持っていただき使えるように支援させていただいている。能力に応じ、ご家族とも相談をした上で決めている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 手紙や電話のやり取りは自由にさせていただいている。携帯を所有している方もおり、トラブルが起きた際はご家族と相談し、対策をたてている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節感のある飾りを利用者様と作り、飾るようにしている。利用者様の状態にあわせて、落ち着いて過ごせるように家具の配置等している。 | 共用空間では、眩しくない照明で落ち着いた雰囲気作りを心掛けている。利用者が作成した作品を飾ったり、季節の装飾を取り入れたりと季節感が演出されている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共有スペースにそれぞれの居場所があるような空間づくりをしている。仕切りがなく、落ち着かない利用者様がいると、他の利用者様にも影響がある場合がある。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 自宅より使いなれたものを持ってきていただいております。居室は居心地の良い場所にしていただいております。 | ベッドと筆筒は備え付けてあるが、それ以外は自由に持ち込みができる。利用者が落ち着いて生活できるよう思い出しの品や使い慣れた品などが持ち込まれている。居室のレイアウトは本人と家族が自由に設置することができる。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 安全を考えた上で家具の配置をしている。危険なものは扉の中に入れておき、利用者様が使いたいときは職員にすぐに言えるような体制にしている。 | | |